

春播き用トウモロコシの安定多収品種「TX1162」

春播き用品種「TX1162」は、初期生育が良好で収量性に優れ、耐倒伏性に優れることから、安定した収量が確保できる

背景・目的

- ・県内における飼料用トウモロコシの作付面積は1,977haで、春夏作における重要な飼料作物である
- ・県酪農及び肉用牛生産近代化計画に掲げる飼料自給率の向上に向け、飼料作物優良品種の選定・普及が必要
- ・飼料用トウモロコシについて、収量性、耐倒伏性、耐病性等に優れた品種が求められている

成果の内容

「TX1162」の特徴（「ゆめそだち」との比較）

- ・発芽、初期生育は、より良好
- ・耐倒伏性は、より優れる
- ・耐病害性は同程度
- ・収量の年次変動が少なく、安定収量が可能



「TX1162」の草姿

過去3年間の対指標データ（H26～H28）

品種	発芽 良否	初期 生育	稈長 (cm)	着雌穂高 (cm)	倒伏 (%)	折損 (%)	病害			生草収量 (kg/a)			乾物収量 (kg/a)		
							南方 さび病	ごま葉 枯病	すす 紋病	茎葉	雌穂	合計	茎葉	雌穂	合計
TX1162	7.8	7.8	186	86	1.7	1.0	1.3	1.7	2.1	369	115	484	69	51	120
ゆめそだち (県奨励品種)	7.3	7.1	173	77	15.7	5.0	1.4	2.1	2.0	295	127	421	58	64	122

注) 発芽良否・初期生育: 1~9良, 病害程度: 1~9甚

自給飼料の安定確保

飼料用トウモロコシのうち、春播き用の作付面積は52%を占め、収量性等に優れた品種が必要である

導入
メリット

中生の「TX1162」を追加することで、春播き栽培における品種選択が充実し、より安定的な自給飼料の確保が期待できる

期待される効果

自給飼料の安定確保による県内酪農家、肉用牛農家の経営安定

普及対象・範囲
県内の肉用牛農家、酪農家

鹿児島県農業開発総合センター 畜産試験場 企画環境飼料部 草地飼料研究室

(高能力飼料作物品種選定調査)